

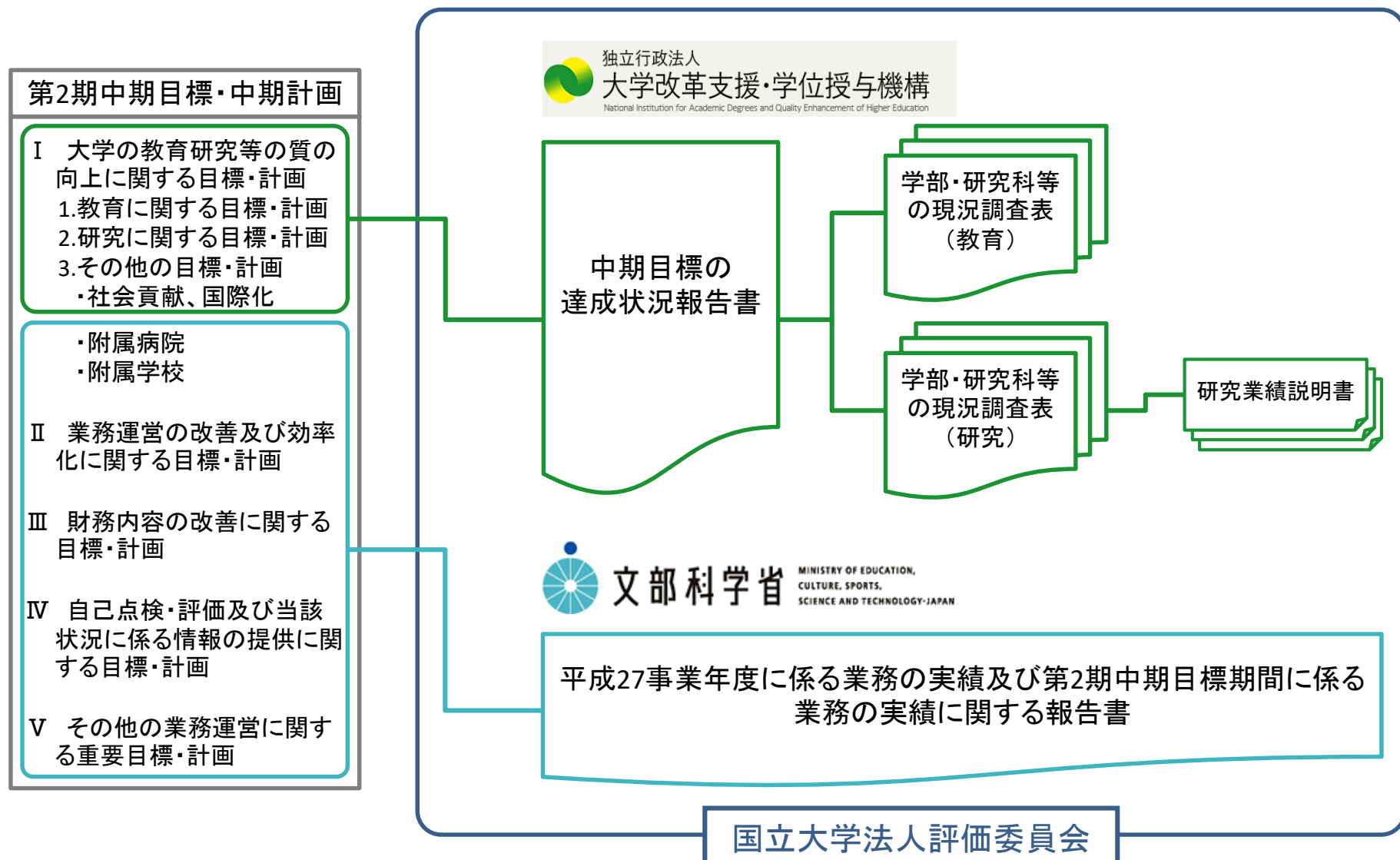
第2期中期目標期間の 業務の実績に関する 評価結果について

山形大学

2017年6月19日



国立大学法人評価の概要及び各種報告書



第2期中期目標期間の実績の評価結果【山形大学の全体評価】

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目標としている【スライド6】。

中期目標期間の業務実績の状況は、「財務内容の改善に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が「非常に優れている」ほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が「良好」である。

(教育研究等の質の向上)

教育課程の構成要素ごとに導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目、展開科目を配置した独自の基盤教育プログラムを整備し、学士課程の基盤となる教育を実施している【スライド7】ほか、総合的学生情報データ分析システムに、学生の入学から卒業・修了までのデータ、各種アンケート結果を集約し、入学者選抜試験戦略の策定や高等学校訪問、学生及び保護者への情報提供に活用している【スライド8】。また、参画企業18社により、エレクトロニクスの産業化を加速する新しい産学連携システムである「山形大学ナノメタルスクール」を発足し、材料メーカー・超微細印刷技術・デバイス製品開発を網羅的に取り組む多方面の企業が集結して同一テーマの研究を推進している【スライド9】。

(業務運営・財務内容等)

「有機エレクトロニクス研究センター(ROEL)」及び「有機エレクトロニクスイノベーションセンター(INOEL)」を開所し、研究環境を整備するとともに優秀な研究者を多数集めて研究体制の強化を行うことで、民間企業との共同研究を推進している【スライド10】。このほか、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を設置し、教員の配置については毎年度各部局が教育課程(教育プログラム)編成案を策定の上で学術研究院長(学長)が認定している【スライド11】。

また、学内マネジメント等に関する情報共有を推進するため、IR機能を有する「総合的学生情報データ分析システム」をバージョンアップしている【スライド12】。

出所: http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/9014/9734/4908/second_06.pdf、1頁。

【濃緑】は本学で追記。

第2期中期目標期間の実績の評価結果【山形大学の項目別評価】

項目		目標数	計画数	評価結果
I 質の向上の状況 教育研究等の 教育研究等の	(1) 教育に関する目標	5	20	中期目標の達成状況が良好である
	(2) 研究に関する目標	3	8	中期目標の達成状況が良好である
	(3) 社会連携・社会貢献、国際化に関する目標	5	11	中期目標の達成状況が良好である
II 財務内容等の状況 業務運営・	(1) 業務運営の改善及び効率化	9	21	中期目標の達成状況が良好である
	(2) 財務内容の改善	4	8	中期目標の達成状況が非常に優れている
	(3) 自己点検・評価及び情報提供	2	4	中期目標の達成状況が良好である
	(4) その他業務運営	4	6	中期目標の達成状況が良好である

第2期中期目標期間の実績の評価結果【国立大学法人の概況】

項目		非常に 優れている	良好である	おおむね 良好である	不十分である	重大な改善 事項がある
I 質の向上の状況 教育研究等の	(1) 教育に関する目標	—	11 (12%)	78 (87%)	1 (1%)	—
	(2) 研究に関する目標	5 (6%)	14 (16%)	70 (78%)	1 (1%)	—
	(3) 社会連携・社会貢献、 国際化に関する目標	1 (1%)	21 (24%)	67 (75%)	—	—
II 財務内容等の状況 業務運営・	(1) 業務運営の改善 及び効率化	13 (14%)	56 (62%)	18 (20%)	1 (1%)	2 (2%)
	(2) 財務内容の改善	6 (7%)	83 (92%)	—	1 (1%)	—
	(3) 自己点検・評価 及び情報提供	7 (8%)	82 (91%)	1 (1%)	—	—
	(4) その他業務運営	5 (6%)	50 (56%)	22 (24%)	13 (14%)	—

第2期中期目標期間の実績の評価結果【法人別・項目別評定】

山形大学の項目別評定。なお、各項目の評定は、法人間を相対比較するものではないことに留意。

		【教育研究等の質の向上における凡例】					【業務運営・財務内容等における凡例】				
		■	□	□	□	■	■	□	□	■	■
		→中期目標の達成状況が非常に優れている	→中期目標の達成状況が良好である	→中期目標の達成状況がやや良好である	→中期目標の達成状況が不十分である	→中期目標の達成状況が改善必要である	→中期目標の達成状況が非常に優れている	→中期目標の達成状況が良好である	→中期目標の達成状況がやや良好である	→中期目標の達成状況が不十分である	→中期目標の達成状況が改善必要である
法人番号	法人名	教育研究等の質の向上の状況					業務運営・財務内容等の状況				
		教 育	研 究	社会 貢献 等	共同 研究	共同 利用	改善 等 及び 効果	財務 内容 の 改善	情報 公開 等	法令 遵守 等	
01	北海道大学	■	■	■	—	□	□	■	□	□	
02	北海道教育大学	□	□	□	—	■	□	□	□	■	
03	室蘭工業大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
04	小樽商科大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
05	帯広畜産大学	□	□	■	—	■	□	□	□	□	
06	旭川医科大学	□	□	□	—	□	■	□	□	□	
07	北見工業大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
08	弘前大学	□	□	■	—	□	□	□	□	□	
09	岩手大学	□	■	□	—	□	□	□	□	□	
10	東北大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
11	宮城教育大学	□	□	□	—	□	□	■	□	□	
12	秋田大学	□	■	□	—	■	□	□	□	■	
13	山形大学	■	□	□	—	□	□	□	□	□	
14	福島大学	■	□	□	—	□	□	■	□	■	
15	茨城大学	□	□	□	—	■	□	□	□	□	
16	筑波大学	□	□	□	—	□	□	■	□	■	
17	筑波技術大学	□	□	■	—	■	□	□	□	□	
18	宇都宮大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
19	群馬大学	□	□	■	—	■	□	□	□	■	
20	埼玉大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
21	千葉大学	□	■	■	—	■	□	□	□	■	
22	東京大学	□	□	□	—	□	□	■	□	□	
23	東京医科歯科大学	□	■	□	—	■	□	□	□	□	
24	東京外国語大学	□	■	■	—	□	□	□	□	□	
25	東京学芸大学	□	□	□	—	■	□	□	□	□	
26	東京農工大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
27	東京芸術大学	■	□	■	—	□	■	□	□	□	
28	東京工業大学	□	■	□	—	■	■	□	□	■	
29	東京海洋大学	□	□	■	—	□	□	□	□	□	
30	お茶の水女子大学	□	□	□	—	■	□	□	□	□	
31	電気通信大学	□	■	■	—	□	□	□	■	□	
32	一橋大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
33	横浜国立大学	■	□	□	—	□	□	□	□	■	
34	新潟大学	□	□	□	—	■	□	□	□	■	
35	長岡技術科学大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
36	上越教育大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
37	富山大学	□	□	□	—	□	□	□	□	■	
38	金沢大学	□	□	■	—	■	□	□	□	■	
39	福井大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
40	山梨大学	□	□	□	—	□	□	□	□	□	
41	信州大学	□	□	□	—	■	□	□	□	□	

法人番号	法人名	教育研究等の質の向上の状況					業務運営・財務内容等の状況				
		教 育	研 究	社 会 貢 献 等	共 同 研 究	改 善 化 等	改 善 化 等	財 務 内 容 等	情 報 公 開 等	法 令 遵 守 等	
		教 育	研 究	社 会 貢 献 等	共 同 研 究	改 善 化 等	改 善 化 等	財 務 内 容 等	情 報 公 開 等	法 令 遵 守 等	
42	岐阜大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
43	静岡大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
44	浜松医科大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
45	名古屋大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
46	愛知教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
47	名古屋工業大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
48	豊橋技術科学大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
49	三重大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
50	滋賀大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
51	滋賀医科大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
52	京都大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
53	京都教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
54	京都工芸繊維大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
55	大阪大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
56	大阪教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
57	兵庫教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
58	神戸大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
59	奈良教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
60	奈良女子大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
61	和歌山大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
62	鳥取大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
63	島根大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
64	岡山大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
65	広島大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
66	山口大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
67	徳島大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
68	鳴門教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
69	香川大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
70	愛媛大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
71	高知大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
72	福岡教育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
73	九州大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
74	九州工業大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
75	佐賀大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
76	長崎大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
77	熊本大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
78	大分大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
79	宮崎大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
80	鹿児島大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
81	鹿児島体育大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
82	琉球大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
83	政策研究大学院大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
84	総合研究大学院大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
85	北陸先端科学技術大学院大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
86	奈良先端科学技術大学院大学	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
87	人間文化研究機構	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
88	自然科学研究機構	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
89	高エネルギー加速器研究機構	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
90	情報・システム研究機構	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

出所: http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/14/1386173_01.pdf、29-30頁。

【参考】第2期中期目標期間における大学の基本的な目標

【基本理念】

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

1. 学生教育を中心とする大学創り
2. 豊かな人間性と高い専門性の育成
3. 「知」の創造
4. 地域及び国際社会との連携
5. 不断の自己改革

【重点目標】

山形大学では、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養う。そのためには、健全で良識ある市民として生きるための豊かな教養、人生をどう生きるべきかという人間理解、他の多くの人々と一体となって成果を創造していくための共生のこころ、習得した高い専門知識を具体的な事例に適用し判断・行動する能力が必要である。本学では、これらの能力を、目的と到達目標を明確に位置づけた教育体系により、着実に身につける教育を行う。

また、東北地区有数の総合大学としての資源を活かし、地域に根ざした多様な研究を推進するとともに、産学官民の広範な連携を推進することにより、地域における知の拠点を形成する。

第2期中期目標・中期計画の詳細は、http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/files/3714/5525/5035/chuki-moku_kei_27.pdfを参照。

【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～基盤教育の導入と充実～

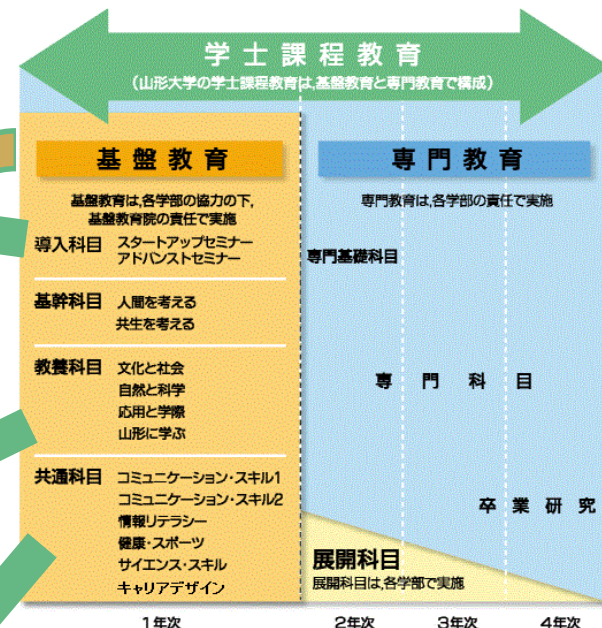
① 共通テキストとして独自に教材を開発



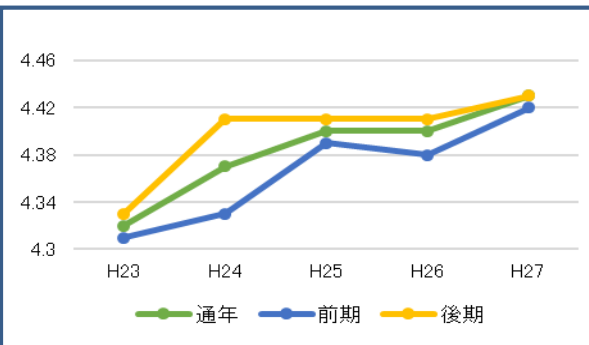
② 地域の豊富な自然及び資源を活用したフィールド科目を開講



③ 実践力を涵養するためにキャリア教育を強化

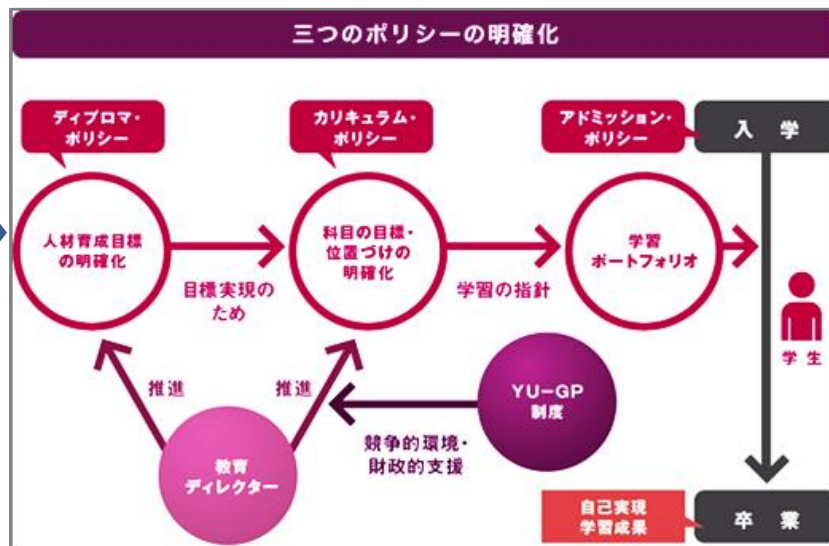
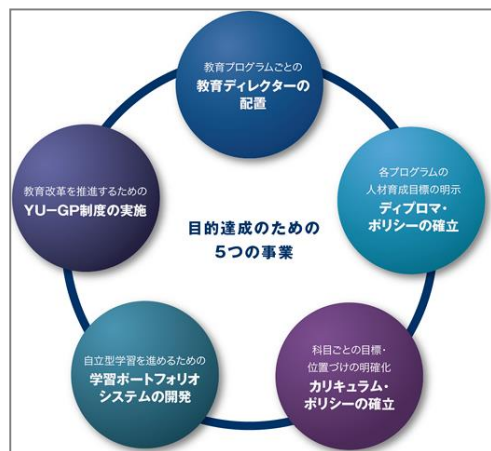


学生の満足度は高く、上昇傾向に！



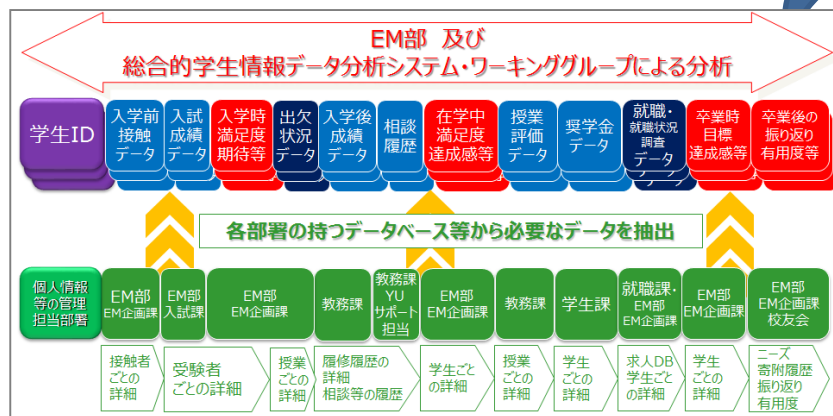
【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～教育の体系化とEMIRの強化～

①教育GP(H21採択)を契機とした教育の体系化



本事業の達成度に対する評価の平均値は、4.07(5段階評価)と高い評価を得た。

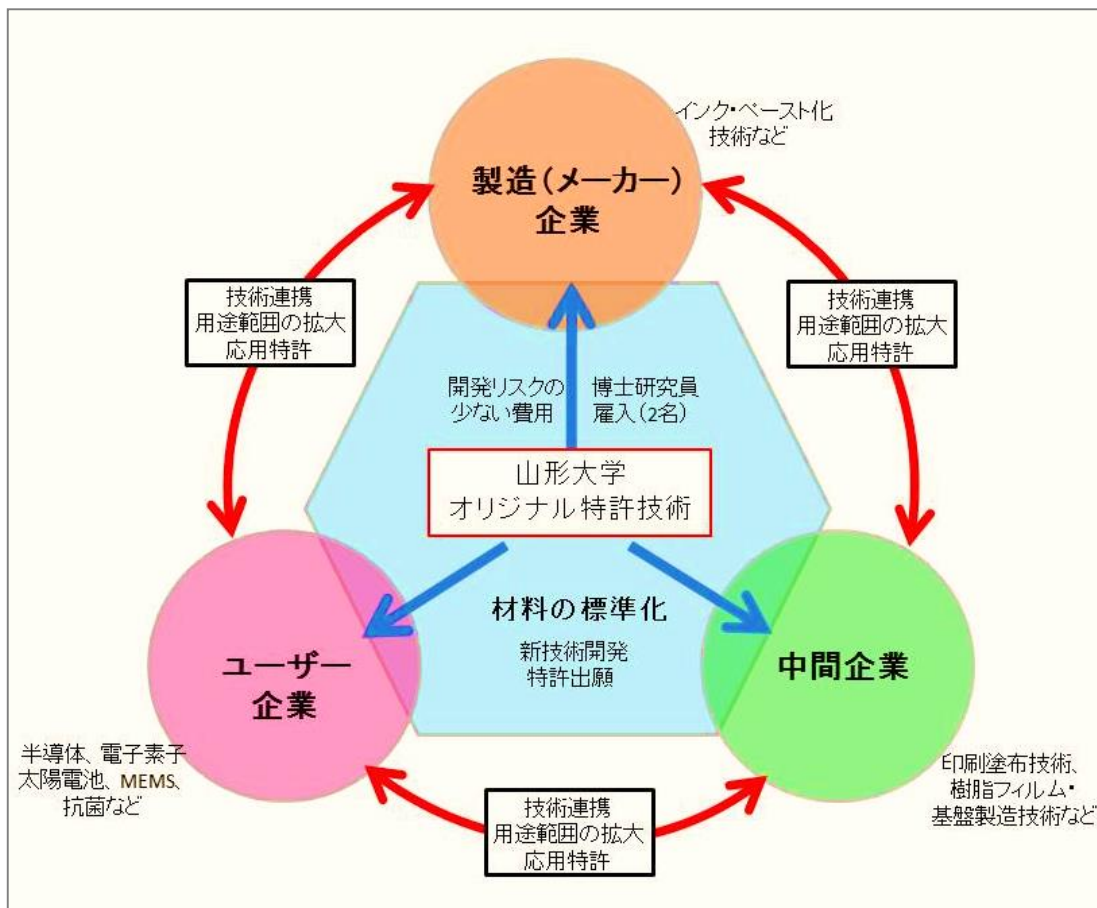
②EMIRの基盤及び機能の強化



- 卒業生・修了生に対する評価を通じて、本学の教育を肯定的に評価(満足度:70%、役立ち度:84%)していることを確認。
 - 進路先等調査を通じて、本学の卒業生・修了生への評価は肯定的(能力や水準が高い:84.3%、積極的に求人・採用したい:59.9%)であることを確認。
- 両調査とも、前回と比して上昇傾向に！

【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～ナノメタルスクール～

- ・平成24年4月17日に参画企業18社が一同に会し、ナノメタルスクールが発足。
- ・材料メーカー・超微細印刷技術・デバイス製品開発を網羅的に取り組む多方面の企業が集結し、同一テーマの研究を推進。
- ・平成25年度には、山形大学において発明・開発された「低温焼成型の銀・銅系ナノ微粒子の製造とその応用技術」が、(独)科学技術振興機構(JST)・知的財産戦略センターにおいて、「プリントドエレクトロニクス用電極材料に関する特許群」として認定され、我が国の知的財産戦略に基づく総合的な支援を受けた。

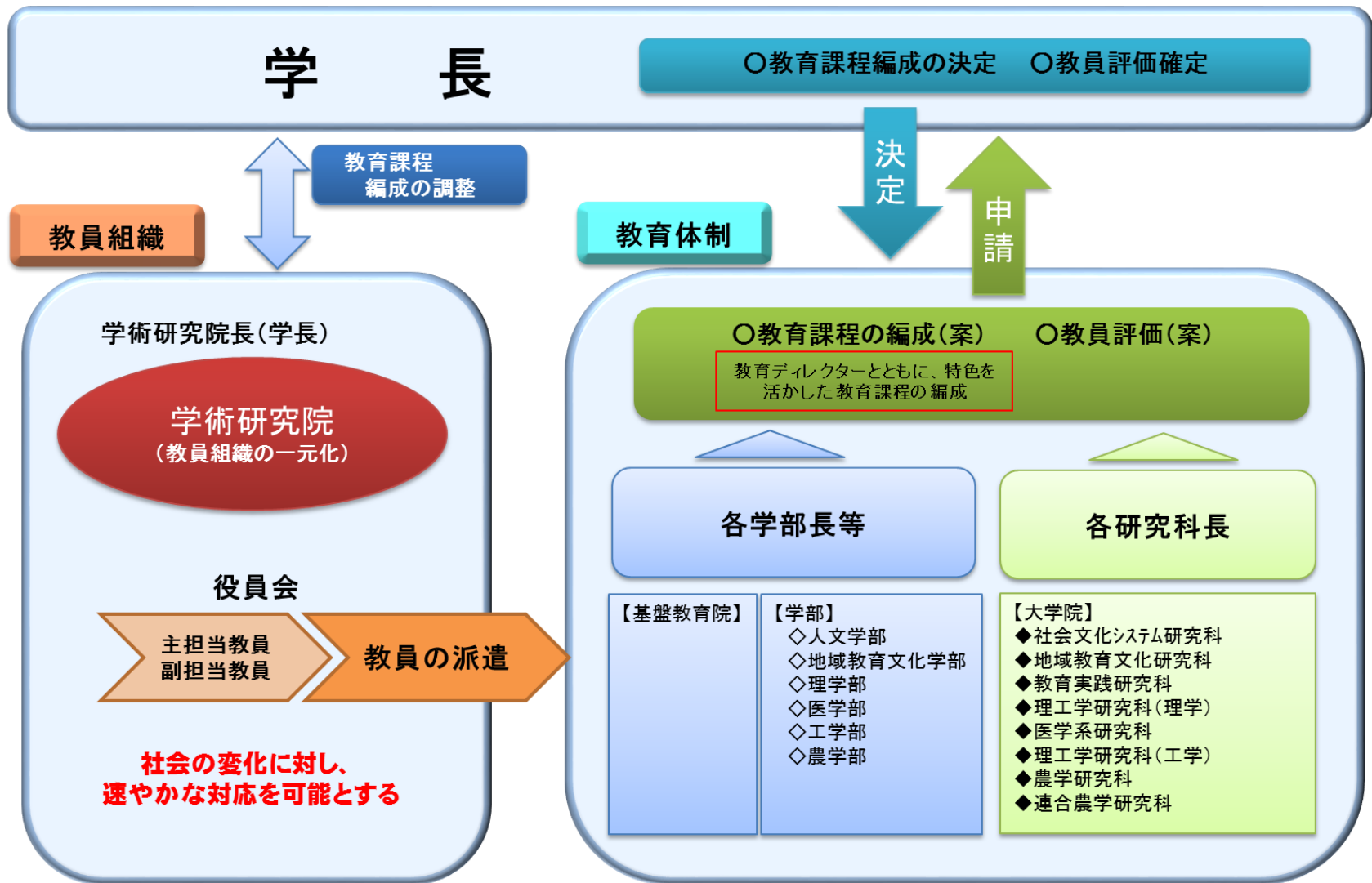


詳細は、<http://www.kschem0.kj.yamagata-u.ac.jp/~kinousei/>を参照。

【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～有機エレクトロニクス～

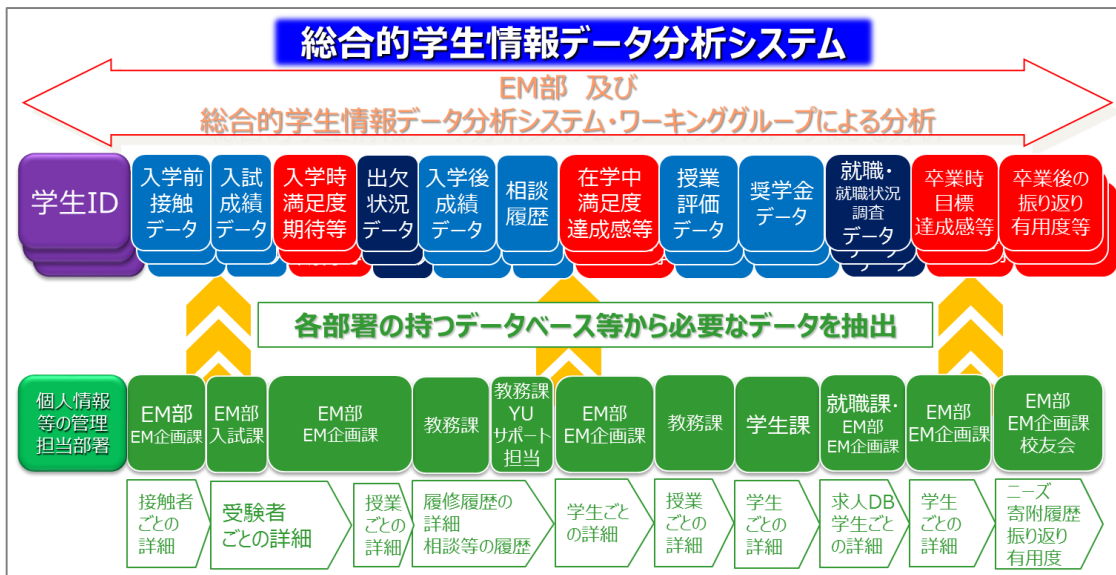


【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～学術研究院～



詳細は、<http://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/new/act/frame/frame110001765.htm>を参照。

【参考】第2期の個性の伸長に向けた取組～IRの機能強化～



集約したデータの可視化

関与する関係者の「言える化」

コミュニケーションの促進

意思決定までの議論の活性化

